

議会開設 120 年に寄せて

専門調査員 政治議会調査室主任
齋藤 憲司

本誌『レファレンス』は、国立国会図書館調査及び立法考査局の機関誌として、帝国議会が国会となってから4年後の1951（昭和26）年5月に創刊されました。議会開設120年にあたり、これを記念して特集号を刊行いたします。

一口に120年と申しましても議会は同一のものとして継続したわけではなく、この間に帝国憲法から日本国憲法に替わり、議会制度も依拠する原理やその構成要素が異なったものになるという変革を受け、帝国議会から国会へと替わりました。この変革が起こったのは今から60年以上も前のことですが、今回、帝国議会と国会を取り上げて論考することは有意義であると言えます。過去は動かし難いにせよ、今を生きる我々は歴史の流れの只中であって、流れの振れ幅の広い地点から過去を振り返れば、また違った位相を見ることが出来るものと思われまます。

特集の第Ⅰ部は、まさにこの視点による考察を行いました。議院内閣制、委員会制度、貴族院改革、選挙運動規制、請願、法案提出の態様の諸論考から、今日直面している国会と内閣の関係、国会運営、国会改革、議員立法などの問題も、「古くて新しい問題」であると言えます。論考のいくつかでは、この変革を挟む前後の議会制度の架橋を試みました。

第Ⅱ部では、海外に目を転じて、女性と議会、議会と電子化、英国下院の特別委員会、外国の政権政党について、国際的動向を考察し、世界の動きを提示することで、議会開設120年の時点での日本の状況を明らかにするとともに、これらの論議を深めてゆく上で参考となる情報をまとめました。

議会開設120年の時点では、国会の歴史は、帝国議会のそれを上回っております。
これからも国会は、新たな歴史を切り開いてゆくことでしょう。
調査及び立法考査局の行う調査が、その一助になれば誠に幸甚です。